

会 議 録

会議の名称及び会議の回	第1回飯田市中学生期の文化芸術・スポーツ活動連携協議会 文化部会
開催日時	令和5年6月29日（火） 午後7時00分～8時45分
開催場所	飯田市役所3階 C311-313 会議室
出席委員氏名	別紙名簿
欠席委員氏名	下島昌子氏
傍聴者	なし
出席事務局職員氏名	生涯学習・スポーツ課 本島補佐 氏原補佐、樋口主事
会議の概要	以下のとおり

1 開会 （進行：生涯学習・スポーツ課 本島補佐）

2 挨拶 （塩澤部会長）

スポーツの課題については一昨年あたりから進められているが、文化とスポーツはやっていることが違う。白紙の状態から方向性や願いを皆でつくっていくために部会をやっていききたいということで、部会の開催を考えている。

個人的な思いとなるが、部活動の「地域移行」という言葉にひっかかる。「移行」ではなく「連携」ではないかと思う。学校と地域との連携、教育委員会と地域との連携など様々な角度からみても連携ということの方が良いのではないか。そのような考え方で地域側から見れば、コミュニティスクールや学校運営協議会の中で一緒に土俵で話ができるのではないかと思う。今日はよろしくをお願いします。

3 報告事項 （事務局 樋口主事）

- ・第1回飯田市中学生期の文化芸術・スポーツ活動連携協議会の会議録について
～事務局より説明～
→補足・意見等なし

4 協議

（1）全体協議

- ・飯田市の理念、目指す生徒についての説明について
～事務局より説明～

質疑応答

（塩澤部会長）

P4「ウェルビーイング」の言葉の意味について説明してほしい。また、P5「心身の健やかな成長と生きる力を育む」とあるが、これは学校教育（が目指すもの）と、考えて良いのか。

（事務局）ウェルビーイングとは、心身ともに健康で幸福な状態を指す言葉であり、最近、教育現場や社会一般にも使われるようになってきている。ここでいうウェルビーイングとは、中学生が様々な活動を通じて、「できた」という達成感や仲間との協働経験、自己有用感等を感じることでできる状態を指している。子ども達一人ひとりがウェルビーイングを感じられるように取り組んでいきたい。

「心身の健やかな成長と生きる力を育む」については、部活動の指針の中で示されているもの。学校教育の中では部活動の適正化について進めており、その中で、元々部活動が目指している育

みたい力として「心身の健やかな成長と生きる力を育む」がある。

こうした「部活動の充実」と「社会教育の充実」を連携させ、新たな活動の場づくりを目指したいということを書かせて頂いている。

(委員)

部活動をそのまま地域に移行するのではないというのはよく分かり、賛同できる。実際、今の飯田市の指針に基づいて活動すると、平日は部活動、土日はどちらか半日の活動となっている。『平日は部活動はなし』として、平日にも土日と同じような受け皿を作っていく（＝部活動を残したままさらに受け皿を増やす）と、子どもの負担は増になってしまうのではないか。また、大会やイベント（出演）は土日に開催され、平日の活動も2時間に制限されているなか、どこに受け皿を作ることをイメージしていくのかを考える必要がある。

また、「心身の健やかな成長」という言葉について、今の部活動の良い面もあるが、部活動で起こったトラブルを学校生活で引きずるという側面もある。

地域で受け皿を探っていくなら、隙間もたくさんあり、地域の受け皿もあると感じているが、負担増のイメージもあるため、その辺の見通しはどうか教えてほしい。

(事務局)

部活動が完全に無くなるのかは、今のところ「分からない」としか言いようがない。国は、最終的に地域クラブに移行したいと考えている。先ほど、部会長からも「部活動の地域移行」という言い方に課題があるとあったが、国でも「部活動の地域連携・地域クラブへの移行」という言い方をしている。地域で行う土日の活動を「部活動」としてやっていくのか、「社会教育活動」としてやっていくのか、まだはっきりしておらず、当面は併存していく形になると思われる。国は最終的には、全てを社会教育活動に持っていきたいと考えているが、それを「段階的に少しずつやりなさい」ということだけが示されており、最終系の目指す姿は国から示されていない。

飯田市としても、すぐに部活動を社会教育活動に持っていくことは難しいと考えており、やはり段階的に、まずは平日の部活動をそのまま残しながら、土日の部分で子ども達が行ける場所を少しずつ地域の中に作りながら進めることになると考えている。

具体的なスケジュールや目指す姿を今年度末ぐらいまでには見通しが持てるようにしたいと考えており、皆さんから意見を頂きながら、最終的なスケジュールや目指す姿を示していきたい。

(アドバイザー)

飯田市のおっしゃった通り、スケジュールも長野県の部活動の地域連携に関する会議が6月に県庁の方で開かれているが、そこでたたき台に出されているスケジュールも大まかなもの。県の指針の改定に向けて、県のスポーツ課と学びの改革支援課からアンケートを実施する予定。これは、今まであった県の指針を、地域連携や地域クラブの移行に向けたものに改訂していくためのアンケートだという風に捉えている。令和8年度までに休日の部活動の地域連携や地域クラブに移行していこうという大まかな流れはあるが、「どこまでに」「どういう風に」というのは、まだ出ていない状態で、一緒に考えさせて頂くという状況。

(委員)

P4「取組の目的」について、1番から4番までであるが、方法が書いてある。そもそも、「健やかな心身」とは何なのか、「豊かな社会性」は何を目指しているのかが、はっきりしていないのではないか。

「豊かな社会性」であれば、例えば協調性が挙げられるが、個人で取り組むものであっても、自己表現をすることによって、社会と通じることもある。

また、幼稚園や保育園だと、「手を繋いで、一等賞」っていうようなこと言ったりするところがあるが、中学・高校ぐらいになると競技性が強くなっている。こうした相反する部分が存在することが、難しいところ。吹奏楽で言えば、地域の方との活動の中で、コンクールや大会での上位入賞をお願いするのか、それとも「社会性」、「地域との連携（文化祭への出演など）」を重要視するのかで、まったく違う取り組みになってくので、その辺りをはっきりしておいた方が良い。

そもそも学校の中での部活動というものがどういう意味を持っているのか。1人で勉強している以上はトラブルは起きないはずだが、クラブは人とやっているからトラブルも起きる。しかし、トラブルが起きることが、社会性を学ぶ1つの勉強の場にもなってくる。トラブルを「起こさない」ではなく、起きたトラブルに「どう対処していくか」が、クラブ活動や地域連携を進めるなかで非常に大事な部分になるのではないかと。

(事務局)

おっしゃって頂いたように、形ではなくて、目指す姿（中学生にこうなってもらいたい）というものを、共有していくべきだということだと思いますので、その辺りをこれからお話していただければと思います。資料にある目的についても、今回のもので決定ではなく、皆さんのご意見をいただきながら、これからまたブラッシュアップして、最終的に年度末までには、目指す姿として文章化していきたいと思っておりますので、いろんなご意見いただければと思います。よろしくお祈りします。

(2) グループ協議

・事務局より部活動の実態、部活動アンケートの結果について説明

～事務局より説明～

→補足・意見等なし

(3) まとめ・共有

【4グループ】

- ・生徒のニーズ把握（極めたい生徒・体験的な機会を望む生徒）が必要である。
- ・目的や目指す方向性は良い。どう共有していくかが難しい。
- ・地域の方々には子どもを褒めてくれ、やる気を引き出してくれる。社会の教育力のすごさを感じている。生徒が地域の中で自己肯定感を感じられる活動にしたい。
- ・保護者への理解促進は、できることからコンパクトにしたい。

【5グループ】

- ・部活動の地域連携としてだけでなく、学校教育全体のことと捉えて進めていくべき。これだけ取り上げても解決していかない。学校の役割や先生の役割を明確にしていく必要がある。
- ・部活動の地域連携を進めることで、学校の教育活動が充実していくということが伝わりづらい。
- ・部活動を楽しみにしている生徒もたくさんいる。部活動を無くしたことで不登校に繋がるケースも考えられるため、部活動を簡単になくすべきではない。
- ・部活動にない活動であっても、地域活動の中でできるような環境を生み出したい。多様性が求められる時代、選択肢を拡げることは大切である。
- ・生徒が自分自身を生かせる場所があると良い。
- ・子どもへの機会提供が飽和状態ではないか。「お客様」ではなく主体的な関わりのできる場があると良い。

【6グループ】

- ・これまでの学校のクラブ活動の中で、対人関係や社会性を学んできた子も多い。トラブル等を乗り越えて一つにまとまる経験もクラブ活動の大事な学びになっていた。こうした学びも、大事なこととして定義しておかないと、地域の方との活動の中でトラブルが生じた場合に「地域に移行したからトラブルが起きた」と、なってしまう。
- ・中学生期に様々な経験を積んでおくことで、大人になって仕事や子育てが一段落した時に思い出して「またやりたい」となってくれ、生涯学習につながる。
- ・「高いレベルでやりたい」というニーズもあるかもしれないが、そういう生徒はそういったグループに入って活動すれば良いのではないか。
- ・冬季ジブン・チャレンジ期間にも大会やコンクール等があり、オフ期間でない部活動もある。部活動の目的が大会への参加ありきになっていないか。部活動の目的が何かを考えながら、大会への参加の判断できると良い。
- ・地域との連携を進めるためには、飯田市の特徴である公民館のしくみを活かすことが良いのではないか。例えば、指導者の発掘を各地区で行い、地区間の連携（館長会や主事会）で共有していくことで、子どものチャンスが広がる。

(4) アドバイザー 南信教育事務所飯田事務所 内田指導主事より

県も国の動向に沿いながら、またアンケートをとりながら指針を作っていく段階にある。飯田市は、このように協議会を立ち上げて文化もスポーツも進めているので、県と同じ歩調で進んでいる。「どういう子どもたちになってほしいか」をイメージして進めていくのかということを見ると、組み合わせではない。一番思うのは、子どもたちが自分で自分の道を歩いていくなれば良いと思っている。グループ協議でもこうした話ができてよかった。